



男女共同参画セミナー2022

報告書—概要版—

女子学生のキャンパスライフ、理想と現実のギャップを教えて！

-女子学生比率向上検討セミナー 学生&教員 W ワークショップ-

2022年10月24日

福山大学ワークライフ支援室

(男女共同参画推進室)



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

目次

1. 概要

1.1. 開催の目的

1.2. 開催概要

1.3. プログラム内容

1.4. ワークショップの流れ

1.5. 参加者

2. 当日の様子

2.1. 学生ワークショップの様子

2.2. 教員ワークショップの様子

3. 今後の課題

1. 概要

1.1. 開催の目的

女子学生比率向上のための議論の場づくり

1.2. 開催概要

女子学生比率向上のための方法として、オープンキャンパスコンテンツの検討をテーマとする。女子学生比率が25%以下の学部学科を対象として、在学生の意見から女子高校生に対する効果的な各学部のアピール方法を検討する。

協力女子学生にキャンパスライフの理想と現実とのギャップについて紹介してもらい、教員が理想に近づける方法や表現を考える。

日時 2022年10月24日(月) 13:30~17:00

場所 クラフト(大学会館3階)

参加対象教員：次のいずれかに該当する方

- ・女子学生比率25%以下の学部学科の教職員
- ・オープンキャンパスの女子学生向けコンテンツを検討したい方
- ・女子学生支援を考えたい方

協力学生：経済学部、工学部、生命工学部の女子学生(各学部10名程度)

1.3. プログラム内容

第1部 女子学生によるワークショップ(13:30~14:50)

テーマ「キャンパスライフの理想と現実について」

主旨説明20分、ディスカッション40分、まとめ20分

第2部 教職員によるワークショップ(15:00~17:00)

テーマ「女子学生に響くオープンキャンパスコンテンツを考える」

主旨説明10分、学生による報告30分、ディスカッション40分、まとめ20分、発表20分

1.4. ワークショップの流れ

- ・全体進行(主旨説明)：佐々木

配布資料：プログラムと女子学生比率データ

福山大学ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）
男女共同参画セミナー企画



女子学生の 女子学生比率向上検討セミナー ＼学生&教員 W ワークショップ/ キャンパスライフ

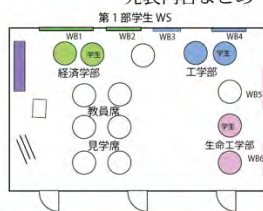
理想と現実のギャップを教えて！

男女共同参画推進を図るため、女子学生目線でのキャンパスライフを考える機会を設けます

第Ⅰ部

女子学生によるワークショップ
(13:30～14:50)
テーマ「キャンパスライフの理想と現実について」

13:30-13:50 主旨説明
13:50-14:20 学生ワークショップ Step1.2
ディスカッション
14:20-14:50 学生ワークショップ Step3
発表内容まとめ

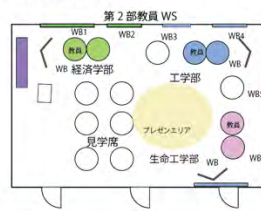


会場レイアウト

第Ⅱ部

教職員によるワークショップ
(15:00～17:00)
テーマ「女子学生に響くオープンキャンパスコンテンツを考える」

15:00-15:05 主旨説明
15:05-15:30 学生の発表 / ポスターセッション形式
15:30-16:30 ディスカッションテーマ「ギャップ」
16:30-17:00 発表



日時
場所

2022年10月24日(月)
13:30～17:00
大会館3階 クラフト

発表 Time *情報共有のために見学席を設けています
ぜひご参加ください

学生による発表 15:05-15:30
教員による発表 16:30-17:00

問い合わせ
窓口

大学教育センター：Suzuki へザー h_suzuki@fukuyama-u.ac.jp
経済学部：薬谷 waratts@fukuyama-u.ac.jp
生命工学部：山本(知) c-yamamoto@fukuyama-u.ac.jp
工学部：佐々木 shinko@fukuyama-u.ac.jp

福山大学における女性比率

令和4年5月1日現在

女子学生比率31%

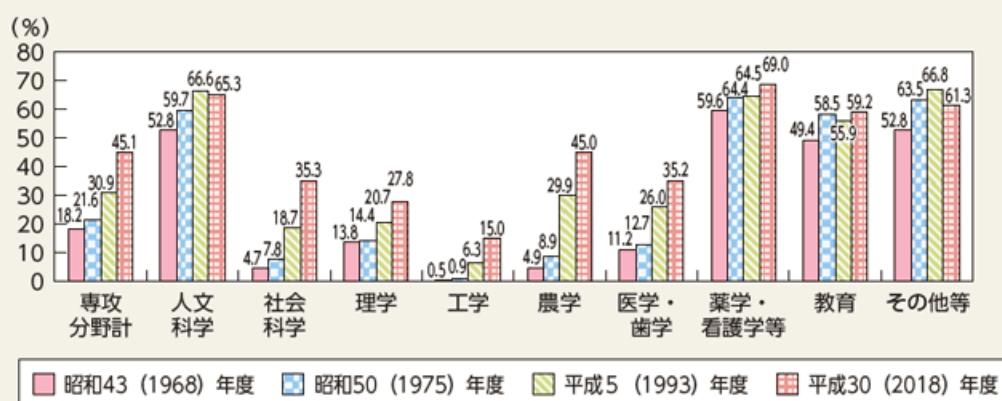
女性教員比率25%

学部	学科	在学生					教員			
		男	女	合計	女子率		男	女	合計	女子率
経済学部	経済学科	572	109	681	0.16	経済学部	27	6	33	0.18
	国際経済学科	117	43	160	0.27					
	税務会計学科	116	43	159	0.27					
	計	805	195	1000	0.20					
人間文化学部	人間文化学科	135	81	216	0.38	人間文化学部	18	11	29	0.38
	心理学科	91	137	228	0.60					
	メディア・映像学科	105	53	158	0.34					
	計	331	271	602	0.45					
工学部	スマートシステム学科	74	1	75	0.01	工学部	36	2	38	0.05
	建築学科	221	57	278	0.21					
	情報工学科	207	11	218	0.05					
	機械システム工学科	115	0	115	0.00					
	計	617	69	686	0.10					
生命工学部	生物工学科	88	29	117	0.25	生命工学部	29	16	45	0.36
	生命栄養科学科	19	107	126	0.85					
	海洋生物科学科	369	82	451	0.18					
	計	476	218	694	0.31					
薬学部	薬学科	284	390	674	0.58	薬学部	34	14	48	0.29
	計	284	390	674	0.58	大学教育センター等	15	5	20	0.25
総計		2513	1143	3656	0.31	総計	159	54	213	0.25

男女共同参画白書令和元年版

特集 多様な選択を可能にする学びの充実 第1節 女性の教育・学びの進展

I-特-2図 大学(学部)学生に占める女子学生の割合



- (備考) 1. 文部省「学校基本調査」(昭和43年度・昭和50年度・平成5年度), 文部科学省「学校基本統計」(平成30年度)より作成。
 2. 「薬学・看護学等」は、「学校基本統計」の「保健」の項目の内, 昭和43年度及び平成30年度は「薬学」, 「看護学」及び「その他」の合計, 昭和50年度及び平成5年度は「薬学」, 「看護学」, 「医学専門学群」及び「その他」の合計で算出。
 3. 「その他等」は, 「商船」, 「家政」, 「芸術」及び「その他」の合計。

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r01/zentai/html/honpen/b1_s00_01.html

第1部 学生ワークショップ

テーマ：女子大生のキャンパスライフの理想と現実について

ファシリテーター：Suzuki

Step1. 高校の時の大学生のイメージ

高校生の頃を振り返って自分が大学生になった時のイメージ 理想をまとめる

Step 1- Image

What was your image of university when you were in high school?

Step2 大学生活の実際

驚いたこと、意外だったこと、カルチャーショックなど

大学全体のことと学部学科に関すること、理想と現実とのギャップをまとめる

Step 2- Reality

What surprised you about university and campus life? Look at what you thought about university when you were in high school. Look at what you thought about campus life. What are the gaps?

Step3. 女子高生に伝えるべきメッセージ=改善策の提案

女子高生に興味を持ってもらうためにどのような方法をとればよいか、改善策などの提案

高校生に何どのように伝えればよいか

Step 3- Suggestion

What suggestions can you make to the university to attract future female students?

発表 Step1 から3について5分程度で説明する（ポスターセッション形式）

学部ごとの教員グループで聞く、合計3回説明

第2部 教員ワークショップ

テーマ：女子高生に響くオープンキャンパスコンテンツを考える

ファシリテーター：経済学部担当藁谷、工学部担当佐々木、生命工学部担当山本（知）

Step1 学生の発表を聞く

ポスターセッション形式で順番に説明を受けて質問など意見交換をする。

Step2 ディスカッションテーマ「ギャップ」

1. 学生の発表の感想（アイスブレイキング）

2. 学生と現在の学科 OC コンテンツとのギャップ

自分の学科の OC コンテンツと女子学生意見とのギャップは何か？

3. 改善方法

ギャップを洗いだして、どうい改善方法が可能かアイデアを出す

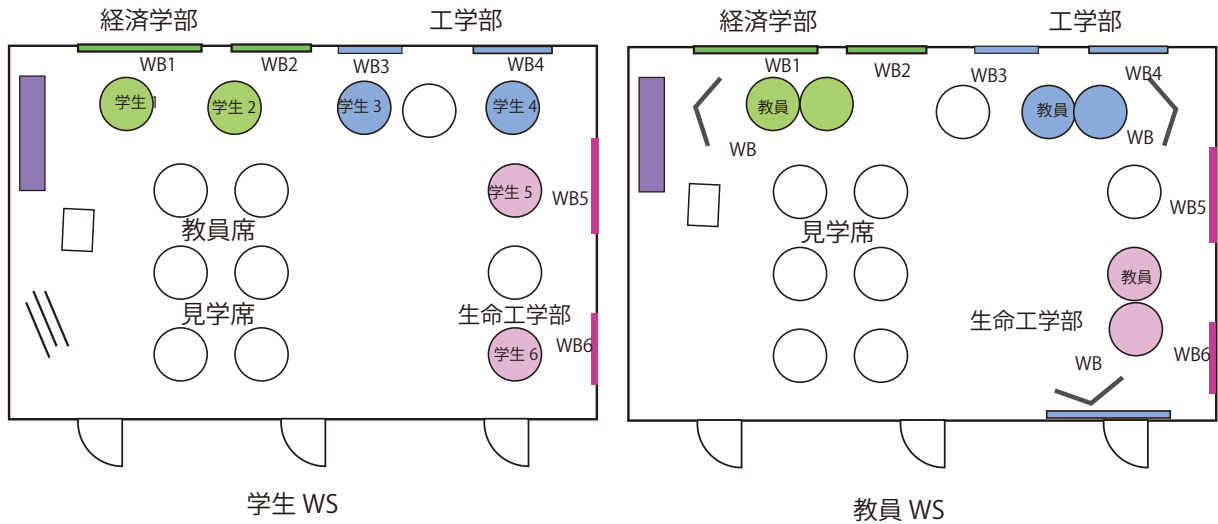
できる・できないは今は考えない Positive mind で！

Step3 これからできること1つ

Change、できること、実行可能なことは何か？

発表

移動式ホワイトボードを会場中央に移動して発表



協力学生に対して発行したボランティア活動証明書

福山大学
ボランティア活動証明書

工学部建築学科 学生番号5621000

氏名 ○ ○

上記学生は、福山大学ワークライフ支援室主催ワークショップ
「女子学生のキャンパスライフ 理想と現実のギャップをおしえて」に
おいて、ボランティアとして参加したことを証明します。

日 時：令和4年10月24日 13:30~15:30
場 所：福山大学
活動内容：女子学生比率向上を目的とした教員ワークショップへの議題提供

2022年10月24日 佐々木 伸子
ワークライフ支援室
(男女共同参画推進室) 室長

1.5. 参加者

第1部 学生ワークショップ参加者 30名

経済学部 13名

経済学科 5名、国際経済学科 2名、税務会計学科 6名

工学部 9名

建築学科 6名、情報工学科 3名

生命工学部 8名

生物工学科 2名、生命栄養科学科 2名、海洋生物科学科 4名

第2部 教員ワークショップ参加者 24名

経済学部 Group 9名

経済学科 5名、国際経済学科 2名、薬学科 1名、大学教育センター1名

工学部 Group 8名

スマートシステム学科 2名、建築学科 2名、情報工学科 2名、機械システム工学科 2名

生命工学部 Group 7名

生物工学科 2名、生命栄養科学科 3名、海洋生物科学科 24名

2.当日の様子

2.1 学生ワークショップの様子

第1部 学生ワークショップ

進行：Suzuki Heather Anne



説明の様子

学部ごとのグループで話し合い



ポスターセッション形式で発表



経済学部の学生による発表（2グループ）



工学部の学生による発表

生命工学部の学生による発表

2.2 教員ワークショップの様子

第2部 教員ワークショップ

進行：経済学部 藁谷達至、工学部 佐々木伸子、生命工学部 山本知里



教員ワークショップの発表

3. 今後の課題

3.1 学生ワークショップより

入学前の予想と現実とのギャップで女子学生から出たコメントは女子特有の意見よりも性別に関係のない「学生」としての意見が多く見られた。以下に要点をまとめる。

1. 学生生活に関して

入学前は大学生になったら友達ができ交流が活発になるイメージだったものが、他の学生と関わる機会が少なく交流がない、イベントも少ないという現実が指摘された。コロナ禍の影響で学生同士の交流や学生活動が乏しくなり、大学生活の楽しみが大きく損なわれていることが課題となっている。学生同士の交流が少ないことはいずれの学部でも指摘されていた。

2. 大学の設備や環境に関して

キャンパスはグループ活動などができる楽しい場所で学食やカフェなどで楽しめるイメージだったものが、実際は、きれいな校舎は一部で多くは老朽化した清潔感の乏しい状態が指摘された。特に女子トイレ（和式）への不満がみられた。学食については、設置数の多さへの評価はあるものの女子向けの少量・ヘルシーなメニューがないことへの不満やカフェや自習スペースなど空き時間の居場所がないことなどが指摘された。

3. 大学の授業や教育に関して

授業や教育に関しては、専門は難しいというイメージがあったが、意外と難しくなかった、又は難しい、教員には熱心に教えてもらえるイメージがそうではなかった、又は先生の面倒見がよいなど意見が別れており、個人的な評価に影響され統一はされていない。授業面ではオンラインになり授業が楽しくない、グループワークがないなどコロナ禍を原因とする課題が指摘されていた。参加学生は意欲があり、学びたいという思いが強い学生が多かったのか現状が物足りないと感じている意見もみられた。勉強は難しいということアピールする必要があると意見が出ていた。これは女子が少ない分野では数学を必要とするイメージが一般的についていることに起因すると思われるが、もっと数学教育に力を入れたいという一部の教員の意見とは真逆になっている。

女子高生に伝えるべきメッセージ、改善策の提案では3学部共通するものとして以下の提案があった。

1. 教育内容の情報発信

資格支援が充実している、留学ができる、奨学金制度が充実しているなど大学の魅力を伝える。それぞれの専門教育のよさを伝え、専門が難しすぎないことを紹介する。

2. イベントなど交流機会の増加

イベントを増やしたり、女子が入りやすいサークルなどを増やして、学生の交流が活発になるようにする。

3. 女性に配慮した施設整備

和式トイレの改善と清潔な教室。カフェテラスや自習スペースなどキャンパスの居場所づくり。

4. 女子向けの広報活動

専門分野が難しいと思っている女子高生に対して、女子学生が説明する。男性の分野とされている学科は女性の活躍を紹介する。女子高生向けの可愛いパンフレットをつくる。

3.2 教員ワークショップより

女子学生の意見をもとにそれぞれの学部でオープンキャンパスの改善提案がつけられた。詳細は各学部報告によるが代表的なものを以下に示す。

1. オープンキャンパスへの女子学生の参加、協力：女子学生による説明、高校生との対話
2. 専門分野での女性の活躍紹介：専門分野での女性の進路、高校教員向けの資料作成
3. 学食の改善：少量、ヘルシーメニュー、スイーツなどの新設、学食に代わるものとしてフードトラックの導入
4. 女性視点の環境整備：女性用トイレの改修、女子がマジョリティになる空間の設置

それぞれの学部で現状に対応した改善方法が提案されていた。しかし、オープンキャンパスのコンテンツ作成はまだ先であり、今回のセミナーでは、実際のオープンキャンパスを企画する実働の体制ではないため、これらが実行できるかは課題である。学部ごとにワーキンググループをつくるなど今後の展開に期待したい。今後は、入試広報との連携や女子志願者増対策を講じる部署を設定した誘導が必要と考える。

また、教員によるワークショップでは男性教員が女性視点を理解しづらいという意見が多く寄せられた。その背景として男性中心の教員構成も影響することから、女性教員を増やすことも指摘されていた。

3.3 まとめ

本セミナーから得られた知見として、女子学生比率向上のための課題を以下にまとめる。

1. 学生のキャンパスライフの充実：大学のアメニティの向上

性別に関係なく、学生のキャンパスライフの充実が求められている。コロナ禍によって学生の交流機会や活動が大きく損なわれた。学生にとって大学が授業を受けるだけの場になっていて、大学での楽しみやアメニティが乏しくなっている。学生ワークショップより、大学に通うことの魅力を学生自身が自覚できていない状況が伺えた。学生が参加するイベントによって学生の交流を促進させたり、カフェやフードトラックなどでキャンパスの楽しみをつくる、授業の合間に自習するスペースなどでキャンパス内の滞在場所をつくるなどキャンパスのアメニティを充実させることが課題である。

2. 女性視点の理解：ダイバーシティへの取り組み

学食のメニュー改善や女子トイレの改修で指摘されるように、これまで数が圧倒的に多い男子学生を中心として考えられてきたことによって女性が利用するという視点が欠けていることが指摘できる。現在は女子がマイノリティであり、不便を感じながら個別に対応をしている。女子学生比率を向上させるためには女子学生の視点に立った施設の改善が必要と考える。その際、ダイバーシティとインクルージョンの社会情勢を鑑み、学生の要望をそのまま受け入れるのではなく、適切な女性視点、包括的な視点での改善の検討が求められる。

また、男性教員の女性視点の理解の困難さは、研修などによる知識や意識の向上だけでなく、女性教員比率の向上も有効な方法である。

以上

編集

ワークライフ支援室（男女共同参画推進室）

男女共同参画セミナー2022 担当

工学部 建築学科

佐々木伸子

経済学部 経済学科

藁谷 達至

生命工学部 海洋生物科学科

山本 知里

大学教育センター

Suzuki Heather Anne

報告 2022年12月12日